



気仙沼市立松岩中学校 限りなき前進～奮え力・磨け心～



# 松中通信

No.13

10月12日 (文責: 教頭)

## 収穫の2学期スタート

今日から2学期が始まりました。始業式では、各学年の代表生徒が今年度後半の抱負を発表しました。また、校長式辞では『サーカスの象』の紹介の後、「生徒の皆さんは、何か物事を始めるときに、「それは無理だろう」とか「出来ない」とか、思い込んではいないでしょうか？本当はやれる力があるのに、サーカスの象のように「自分にはたいした力がない」と思い込んでいないでしょうか？「できない理由を考えて行動しない」ということはないでしょうか？象が1トンの重量を持ち上げる力を持っているように、私たちも誰にも知られていない非凡の能力を持っているのです。学習面でも部活動でも、「失敗したらどうしよう」「出来なかったらどうしよう」など、結果の事を先に考えるのではなく、自分を信じ、できることをイメージし、覚悟を決めて努力を重ねることが結果に結びつくのです。皆さんには「のびしろ」がたくさんあります。何か成し遂げたいことがあれば、まずは自分の可能性を信じ、行動しましょう。」と、松中生へ期待が語られました。

2学期は10日後に迫った運動会を皮切りに、3年生にとっては待ちに待った東京方面への修学旅行、2年生は11月に職場体験、そして1年生は気仙沼支援学校とのクリスマス交流会と、学校行事や活動が目白押しです。これまでの学習や取組の成果である実りを収穫する、まとめの時期と言えます。さらに、これまで松中を様々な形で牽引してきた3年生から、リーダーとしての役割が2年生へ引き継がれる重要な時期でもあります。2年生にはこれまで3年生が築き上げてきた伝統をしっかりと引き継いでほしいと思います。

松中生一人一人が、物事を成し遂げたいという志を持ち、自分の可能性を信じ、“**限りなき前進**”が果たせるよう、2学期も支えていきたいと思っています。

### 『サーカスの象』

サーカスの象は、ロープで杭につながれてじっとしている。杭を引き抜くだけの力を持っているのに、なぜその力を発揮して逃げ去らないのでしょうか？

答えは簡単です。「自分にはたいした力がない」と思い込んでいるからです。象は子供の頃、鎖で杭につながれて毎日を過ごしました。小さいのでたいした力がなく、杭を引き抜くことができません。象は大きくなってからも、その思い込みにとらわれ続けます。調教師はそれを知っているから、鎖のかわりにロープを使って象をちっぽけな杭につなぎとめます。大きな象にとって、ちっぽけな杭を引き抜くくらいたやすいはずですが、しかし、象は「自分にはたいした力がない」と思い込んでいますから、何もせずにじっとしています。

9日(日)のPTA親子奉仕作業には、早朝からの作業にもかかわらず、ご参加いただきありがとうございます。運動会に向けて、会場の環境が万端整いました。